幼児教育はもっと生活に即して

友だちとの楽しい励み合いの生活の中で、幼くても自分でできることは責任を持ってすることや、本物にふれる体験をしていくことにより、子どもたちの力と感性が育まれていきます。そして友だちと過ごす中で協力の楽しさを知り、自分のことも顧みるなど、家では得られない経験を重ねていくうちに、心も豊かになります。

生活指導を軸にして

生活の技術を小さい人たちの自発心に訴えて学ばせること―手を洗ったり、歯をみがいたり、顔を洗ったり、髪をとかしたり、ごはんを食べたり、きものを着ることなど、すべての生活は生活指導の大事な対象になります。

美術や音楽

いわゆる美術のための美術、工作のための工作でなく、生活と結びついているところに特色があるでしょう。
音楽ももちろん、何か特技をつけておけば得だというようなこととはちがって、耳の感覚を養います。

動物を飼ったり、花を育てたりすること

ここではただ自然科学的な研究心を育てるばかりでなく、子どもたちが正しくものを見、愛するよろこびを感じ、また根気づよさとか、勤労の意味を知るのです。

集団生活の中で

子ども同士のなかでは、相当こみいったことが、かえってピンとくるということが多いのです。
幼児は、直感的で、具体的なものから学ぶのが自然です。

羽仁説子「幼児教育はもっと生活に即して」（一）・（二）『婦人之友』1959年7月・8月号より

子どもの発達にあわせた生活団の3年間

週に一度の集合日はお友だちとの交わりの中でたくさんの刺激を受け、ほかの日は家庭で過ごしながら成長していきます。家庭と協力して見守っていきます。

4さいぐみ

お友だちと一緒に身の回りのことを自分でする楽しさを体験

5さいぐみ

一人ひとりの個性がはっきりしてくるとともにお友だちのことがよくみえるようになる
協力の楽しさを体験する

6さいぐみ

まわりの力を受けながら心身ともに成長し、「ありがとう」の気持ちも芽生える

毎日の生活の中で　やってみる　気づく　考える

朝起きてから夜寝るまでの生活を子ども
自身の力で過ごせるように取り組み、
生活習慣が身につくと共に自分でできた
喜びを体験する

お家でも『やってみよう！』と思えるように励み表を通してその気持ちをたすける。ありのままの生活を励み表につけていると自分のことを知ることができる。

美　術

子どもたちは、
自身が体験したこと、
感じたことを
絵に描いたり、
歌にしたりしました。

音　楽

みんなで合奏

色々な楽器の音を楽しみます♪

子供読本とともに

羽仁もと子

「これは、子供と少年少女のための“思想しつつ、生活しつつ”です。」

「子供読本などは、ある意味で、聖書のようなものというか、昆布のようなかみしめると味のあるもののような気がします。」

羽仁説子

〈羽仁説子「私と子供読本」『婦人之友』１９６０年４月号より〉

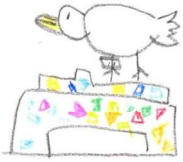
生活団では新学期や行事の前・少し奮発したい時など、年齢に合わせて読んでいました。教訓的ではなく、子どもの心に明るくすっきりとなじむものだと思います。

いろはかるた47話より

- 力はでるものだせるもの
- 下手も上手のうち
- 臨機応変
- 三つ子の魂　百まで
- 笑う門には福来る
- 朝起万円
- かわいい子には旅をさせ
- 豚に真珠
- 宝の山はどこにある
- うてばひびく
- 歴史はくりかえす
- 労するものにむくいあり

など

家庭とともに



「教育は交わりである。よく交わるものはもっともよく教育される。おとなが子供を教えるのでなく、共に交わりつつ相互いに教育される。

　人間のよき交わりは、相互いに心をこめたよき生活のなかにある。」

羽仁もと子著作集第18巻『教育三十年』「教育は交わりである」1948年5月より

友の会幼児生活団は、長い年月、家庭と協力して共に歩んできました。

2022年度をもって教育機関としての役割を終えることになりましたが、子どもの想いに耳を傾け、大人も子どもも一人の人（格）として互いに尊重し合うという教育理念を継承していきます。